

自主防災部活動 ファイル



はじめに

京都市では、各地域で結成されている自主防災組織（自主防災会・自主防災部）において、日ごろから防災訓練をはじめとした防火防災活動に積極的に取り組んでいただいているいます。

近年は地震のほか、台風や集中豪雨などにより、今までに経験したことのない想定を上回る災害が頻発しており、その形態も複雑、多様化しています。

また、地域コミュニティの希薄化や少子高齢化など、地域防災の脆弱性も新たな課題として浮き彫りとなってきており、自主防災組織においても、防災訓練参加者の固定化、要支援者への対応、将来における地域防災の担い手となる若い世代の育成などが課題となっています。

地域防災の新たなニーズに対応するためには、今一度、市民一人ひとりが「自分ごと」として災害に備え、地域住民が「みんなごと」として助け合うことが求められます。

このファイルでは、自分の身は自分で守る「自助」をはじめとして、自主防災部長の役割や具体的な活動内容、防災に関する資料などを編集しています。

このファイルを活用して、地域における自主防災活動により一層積極的に取り組んでください。

令和2年4月 初版
令和5年2月 第2版



自主防災部活動ファイルとは

もしも災害が起きたら、私たちはどうすればよいでしょうか？

災害は、いつ起こるか分かりません。自分や家族、地域を守るために、日頃から防災に関する知識を身に着け、いざというときに備えておくことが大切です。

京都市では、自分たちの地域を守るために、おおむね学区を単位として自主防災会が組織され、自主防災会ごとに自主防災会長を中心に関係者で組織して、災害に備えて様々な取組をされています。

また、自主防災会には、おおむね町内会を単位とした““自主防災部””が組織され、その自主防災部のリーダーとなるのが自主防災部長です。

「自主防災部活動ファイル」とは、災害時に一人の犠牲者も出さない、『自分たちのまちは自分たちで守る』という理念のもと、日頃から住民が互いに顔の見える関係を築き、地域連携による防火・防災活動に取り組んでいただく一助となる、自主防災部長のための「自主防災活動の手引き」です。

「自主防災部活動ファイル」には、自主防災部長の役割をはじめ、自主防災部として災害発生時にとるべき行動をあらかじめ決めておく防災行動シートや、災害に備えて取り組んでいただきたい訓練メニュー、日頃からの備え等がまとめられています。

自主防災部長には、このファイルを参考に平常時と災害発生時の2つの場面でリーダーとなって活動していただきます。また、自主防災部の活動記録や課題などもファイルに書き込んでいただけますので、これまでの活動内容を確認し、今後の活動につなげていただくことができます。

自主防災部長が交代されるときは、新しい自主防災部長に、1年間の活動結果の報告と共に、このファイルを必ず引き継いでいただき、これまでの自主防災部の取組が継続されますようお願いします。

目次

はじめに	
自主防災部活動ファイルとは	
目次	
ファイルの活用方法	A-1
消防職員・自主防災部長確認シート 記入例	A-2
訓練メニューオーダーシート 兼 記録書 記入例	A-3
自主防災組織とは	
自助・共助・公助	A-4
自主防災組織の必要性	A-4
自主防災組織の体制	A-5
自主防災組織と消防団	A-5
自主防災部長の役割	A-6
災害発生時	
災害発生時の行動	A-8
防災行動シート作成例	A-9
防災行動シート【地震】	A-11
防災行動シート【水災害】	A-12
防災行動シート【土砂災害】	A-13
被害状況・安否確認用地図	A-14
自主防災部名簿	A-16
地域における災害発生時の タイムライン式 行動計画	
地震発生時の行動	B-1
1.自分の身の安全確保・家族の安否確認	B-2
2.出火防止措置	B-2
3.地域の集合場所へ	B-3
4.自主防災部で情報共有・安否確認	B-3
5.自主防災部で消火・救出・救護活動	B-4
6.避難所運営	B-4
水災害・土砂災害時の行動	B-5
1.情報収集	B-6
2.避難情報等発令	B-7
3.避難行動開始	B-8
4.避難完了(指定緊急避難場所)	B-8
災害発生までの流れと主な活動	B-9
平常時	
平常時の活動	B-10
京都市市民防災センター	B-12
災害の記憶	
(平成25年台風第18号・平成30年7月豪雨)	B-15
自主防災部活動記録	B-16
訓練メニュー	
地域発災型訓練	C-1
防災ワークショップ・災害図上訓練	C-2
タウンウォッチング・防災マップ作成	C-3
逃げ地図・クロスロード	C-4
消火実験会・救命講習	C-5
搬送訓練・ロープワーク	C-6
防災カードゲーム	C-7
防火・防災紙芝居・火災調査体験	C-8
防災力チェック	C-9
消防活動総合センターの利用	C-14
倒壊家屋救出訓練	C-14
煙中避難訓練・水災害体験訓練・実放水体験	C-15
防災器材取扱訓練	C-16
事前の備え(自助)	
自助・家具の転倒防止等	D-1
風水害の防止	D-5
備蓄食料品	D-6
非常持出袋	D-7
生活防災のススメ	D-8
自分の身に起りうる被害を知る	D-9
自主防災活動における感染症対策	D-9
防災情報の入手方法	D-10
資料	
南海トラフ巨大地震・ 活動期に入った京都の地震	D-11
自主防災活動助成	D-12
住宅用火災警報器	D-13
消防職員・自主防災部長確認シート 訓練メニューオーダーシート 兼 記録書	

ファイルの活用方法

このファイルは、平常時に自主防災部で実践していただきたい活動や、災害発生時の自主防災活動などを取りまとめたものです。

1. 引継ぎ・消防職員との面談

自主防災部長に交代があった場合は自主防災会総会などの機会に、前自主防災部長から新自主防災部長へこの自主防災部活動ファイルの引継ぎを行ってください。その際に地域の防災指導を担当する消防職員が面談を行い、自主防災部長の役割や訓練の必要性、訓練メニューなどを説明しますので、次のページ「確認シート」の記入例を参考に説明内容を確認してください。

2. 訓練内容の検討・消防職員へ連絡

次にご自宅などでファイルを確認していただき、「訓練メニュー」を参照して、年度内に自主防災部で実施する訓練内容を検討してください。

実施する内容が決まれば、地域の防災指導を担当する消防職員に連絡してください。連絡方法については、電話、FAX、来署のいずれの方法でも結構です。FAXで連絡される場合は、「確認シート」の裏面「訓練メニューオーダーシート兼記録書」を活用してください。

3. 訓練の実施・記録

訓練の実施日、実施場所などを消防職員と調整し、訓練を実施してください。

訓練実施後、「訓練メニューオーダーシート兼記録書」に、実施日、参加人数を記入のうえ、消防職員がサインをしますので、この活動ファイルに編冊してください。

年度内に追加で訓練を実施したい場合も同様の手順で実施してください。

4. 災害対応確認

災害発生時には、「防災行動シート」などを活用し、自主防災部長として災害対応に当たってください。事前に「災害発生時」を読んで、手順書や安否確認用紙などを作成しておきます。作成について不明な点は、消防職員にお問い合わせください。

5. 引継ぎ

活動が終了すれば、自主防災会総会などの機会に次の自主防災部長へこれまでの活動について報告し、このファイルを引き継いでください。

自主防災部長を交代してからも、これまでのご経験を生かして、自主防災組織の一員として、積極的に自主防災活動に参加してください。

記入例

消防職員・自主防災部長 確認シート

この確認シートは、自主防災部長と地域を担当する消防職員が面談を行う際に、自主防災部長の役割などについて、消防職員が説明させていただき、内容の確認をしていただくためのシートです。

消防職員の説明を受けて理解できた項目にチェック してください。

項目	はい	いいえ
地域の集合場所について理解できましたか？	✓	
自主防災部長の <u>災害時の役割</u> について理解できましたか？	✓	
自主防災部長の <u>平常時の役割</u> について理解できましたか？	✓	
南海トラフ地震発生時の震度について理解できましたか？	✓	
花折断層地震発生時の震度について理解できましたか？	✓	
京都市の <u>ハザードマップ</u> について理解できましたか？	✓	
防災行動シート【地震】を作成していますか？	✓	
防災行動シート【水災害】を作成していますか？	✓	
防災行動シート【土砂災害】を作成していますか？	✓	
町内（自主防災部）単位で年1回以上、 <u>訓練を行う必要性</u> について理解できましたか？	✓	
訓練メニューについて理解できましたか？	✓	
訓練オーダーシート（裏面）について理解できましたか？	✓	
ファイルの活用方法について理解できましたか？	✓	

説明実施日	□□年 □月 □□日
自主防災部長名	○○ ○○
担当職員 氏 名	△△ △△
所属・電話番号	◇◇消防署（ 123-4567 出張所）

※不足の場合はコピーして使用してください。

記入例

訓練メニュー オーダーシート 兼 記録書

年度	年度	自主防災部名 自主防災部長名	自主防災部
----	----	-------------------	-------

選択	計画				結果		
	No.	実施内容	実施可能場所	実施希望時	実施日	参加人数	担当職員 サイン
<input checked="" type="checkbox"/>	1	地域発災型訓練（V S 地震）	地域内		/		
	2	防災ワークショップ			/		
	3	災害図上訓練（D I G）			/		
<input checked="" type="checkbox"/>	4	タウンウォッチング		5月頃	5/○	30	△△
	5	防災マップ作成			/		
	6	逃げ地図			/		
	7	クロスロード			/		
	8	消火実験会（消火器）			/		
		消火実験会（バケツリレー）			/		
	9	救命講習			/		
	10	搬送訓練			/		
	11	ロープワーク			/		
	12	防災カードゲーム			/		
	13	防火・防災紙芝居			/		
	14	火災調査体験			/		
	15	防災力チェック					
	16	倒壊家屋救出訓練	消防活動 総合センター		/		
		煙中避難訓練			/		
		水災害体験訓練			/		
		実放水体験					
	17	防災器材取扱訓練	地域内		/		

- 訓練メニューを参照し、今年度に実施したい事項(複数可)を選び、選択欄に☑してください。
- 選択した事項について、実施を希望する時期を記入してください。(例：9月頃)
- [] は、定期的に実施していただきたい事項です。
- 記入したシートは、FAXもしくは来署のうえ、担当の消防職員へお渡しください。
- 後日、日程調整等について、担当の消防職員からご連絡いたします。

ご連絡先

電話 : 987-6543

FAX : 同 - 上

連絡可能
時間帯

午前 • 午後 [6] 時以降

コメント欄(実施後の感想・課題など)

※不足の場合はコピーして使用してください。

自主防災組織とは

自助・共助・公助

自主防災組織は、地域の住民が互いに助け合って組織的な防災活動に取り組みます。これを「**共助(きょうじょ)**」と言います。また、消防など行政機関による救助活動や支援物資の提供などの公的支援のことを「**公助(こうじょ)**」と言います。

大切な命を災害から守るために最も重要なのは、住民一人ひとりが防災に関心を持ち、「自分の身は自分で守る」意識を持って災害に備える「**自助(じじょ)**」です。

自分が助からないと近くで助けを求めている人も当然助けられません。災害から身を守る方法を知っておきましょう。

災害の規模が大きい場合は、避難生活を送る必要があります。避難生活を数日間送るためにには、水や食料などの備えをしておくことが必要です。

平常時から、各自、各家庭において3日分以上の食料・飲料水等の備蓄を行うとともに、いざというときの避難行動について、あらかじめ確認、認識しておきましょう。

自助、共助、公助について、大規模災害発生時にそれぞれの対応力がどれくらい必要となるか。その割合は阪神・淡路大震災の教訓から、「**自助：共助：公助=7:2:1**」と言われています。

公助には限界がありますので、「各自の備え」、「地域のつながり」を大切にして、災害による被害を少しでも小さくしましょう。

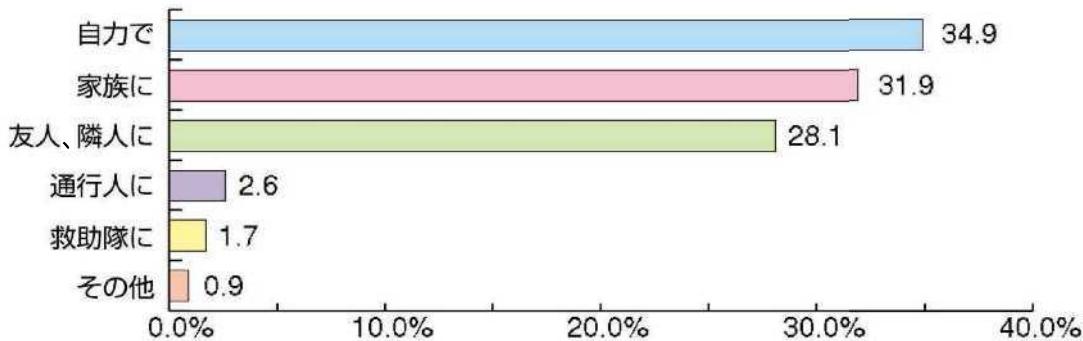
自主防災組織の必要性

地震や台風、集中豪雨などにより、大規模な災害が発生した場合、その被害は同時に多発的に、広範囲に及び、道路の寸断や交通渋滞、通信手段の混乱などから、消防などの行政機関の力だけでは、十分な防災活動ができないことは、過去の災害において経験しています。

阪神・淡路大震災では、倒壊家屋から救出された約95パーセントは、自力又は家族や近隣の方々により救出されており、住民による救助活動の重要性が強く認識されました。

災害による被害を軽減し、早い復旧を目指すためには、まず「自分の身は自分で守ることから始まり、次に地域住民同士による助け合いが必要となります。

自主防災組織は、地域住民が協力し合って、「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識を持って、効果的な組織活動を実施する目的で結成されている組織です。

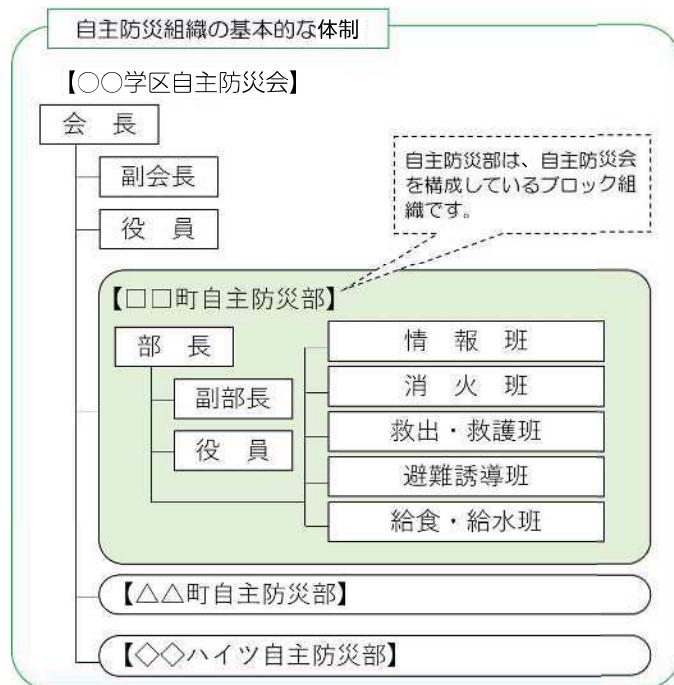


阪神・淡路大震災における市民による救助・救護活動

日本火災学会：「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」による

自主防災組織の体制

京都市の自主防災組織には、おおむね学区(元学区)を単位とした「自主防災会」と町内会や自治会などを単位とした「自主防災部」があります。



自主防災組織と消防団

消防団は通常時、地域住民の災害対応力を向上させるため、地域の自主防災組織のよきアドバイザーとして活動しています。大規模な災害が発生した際には、行政での対応に限界があるため、自主防災組織と消防団で効果的な防災活動が行えるよう相互に連携を図ることが大切になります。

自主防災組織と消防団は、地域防災力を支える両輪として連携し、地域の様々な活動を実施していただいています。

自主防災部長の役割

役割

災害の発生を完全に防ぐことは不可能です。災害対策は、東日本大震災の後、これまでの「防災」だけでなく、一人ひとりの自覚及び努力によって、災害発生時の被害を最小化し、たとえ被災したとしても人命が失われないことを最重視する「減災」へシフトしています。さらに被害を小さくするだけでなく、できるだけ早く回復させる「縮災」が求められます。

自主防災部長には、「防災」・「減災」・「縮災」を目指し、「**自分の身は自分で守る、自分たちのまちは自分たちで守る**」という理念の下、自分を自らの手で、また自分たちの地域を自分たちの手で守ることができる地域をつくるための「**自主防災リーダー**」としての役割を担っていただきたいと思います。

自主防災部長の行動は、「災害発生時」と「平常時」に分かれます。

災害発生時の行動

事前に決めておいた手順により、自主防災会本部との連絡、情報の収集や伝達などを行います。

自主防災部活動ファイルには、自主防災部で活用していただける「防災行動シート」(地震、水災害、土砂災害)がありますので、作成例を参照していただき、自主防災部における地域の集合場所や行動内容等を決めていただき、このファイルに編冊し、災害発生時に迅速に行動できるようにしておきましょう。

不明点がある場合は、自主防災会又は担当の消防職員にお問合せください。

平常時の行動

地域住民が、防災に関する正しい知識を持ち、備えることの大切さを認識して、災害発生時に適切な行動を取ることができるように、訓練や防災ワークショップなどの活動を行い、地域全体の防災力の向上を図ります。

平常時の活動については、C-1～C-16ページの訓練メニューの中から訓練を選択し、年に1回以上実施してください。平常時の活動を実施するときは、地域を担当する消防職員が指導を行いますので、年度始めに自主防災会総会時などの機会を通じて、消防職員と面談して、相談しながら進めてください。

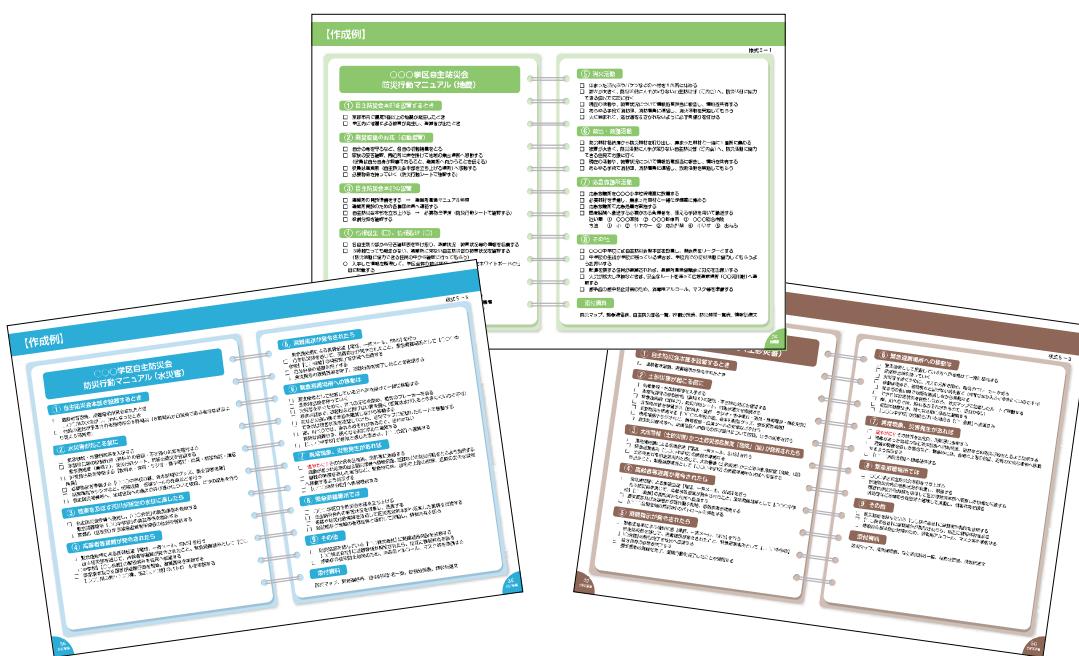
防災行動マニュアル

防災行動マニュアルは、地域で想定される災害による被害を把握し、「いつ」「何を」「誰が」といったことを自主防災会で事前に取り決めたタイムライン式防災行動計画です。

日常の対策から、地震、水災害、土砂災害時における防災行動について具体的に記載されています。防災行動マニュアルの内容については、地域の自主防災会又は担当の消防職員にお問い合わせください。



防災行動マニュアルは、「地震編」のほか、地域の状況と被害想定に応じて、「水災害編」と「土砂災害編」が策定されています。



災害発生時

災害発生時の行動

災害発生時に、自主防災部長として慌てずに行動ができるように、どのような流れで行動するのか、一連の手順をあらかじめ決めておき、一目でわかるようにフローチャート図やチェックシートのようなものを作成しておきましょう。

自主防災会の防災行動マニュアルで、防災行動シートが作成されている場合は、それを活用しましょう。作成されていない場合は、次のページの防災行動シートと、A-14ページのような被害状況・安否確認用地図を作成しておく必要があります。

また、地域住民への情報伝達方法として「自主防災部名簿」を作成しておきましょう。名簿を作成しない場合は、どのように情報伝達を行えばいいか検討し、その方法を地域住民に周知しておきましょう。



防災行動シート作成例

災害発生時にマニュアルを読まなくても行動ができるように、行動要領を記載した防災行動シートを作成しておきましょう。

防災行動シートには、普段から確認しておく内容と、実際に自主防災部長が行う自主防災活動をまとめています。事前に地域の集合場所や、指定避難所、指定緊急避難場所を記入し、災害発生時の行動をシミュレーションしておくことが大切です。

下記の記入例を参考に、各自主防災部の実情に応じた使いやすい防災行動シートを作成してください。

また、集合場所、指定避難所、指定緊急避難場所等が分からない場合は、担当の消防職員にお問合せください。

[○○] 自主防災部長	
防災行動シート【地震】 災害が起きたときは以下の要領で行動を！ 	
震度5弱以上の地震が発生した場合 → 地域の集合場所 → 避難所（○○小学校）	
地震発災時（普段から確認しておくこと）	
<input type="checkbox"/> 自分の家の安全の確認	ます、生き残る！怪我をしないこと！
<input type="checkbox"/> 火の迷子	
<input type="checkbox"/> 出口の確保	
地震発災直後	
<input type="checkbox"/> 家庭の安否確認	非常持出袋を持つ
<input type="checkbox"/> ガスの元栓を閉める	地域の集合場所へ
<input type="checkbox"/> 電気のブレーカーを切る	被害状況の確認
<input type="checkbox"/> 必要なあれば消火活動、救助、救援活動	
地域の集合場所に近くまで	
<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認	隣近所、高齢に支援が必要な方に対する避難準備
<input type="checkbox"/> 必要なあれば消火活動、救助、救援活動	
地域の集合場所で実施すること	
<input type="checkbox"/> 地域住民の安否確認	必要なあれば消火活動、救助、救援活動 (人手不足の場合は、長い距離へ送り振り分け)
<input type="checkbox"/> 避難者集計	
<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認、情報の集約	指定避難所へ行く住民、自宅に戻る住民の把握 (高齢者へ協力できる人材の把握)
<input type="checkbox"/> 傷害対応への備え	
指定避難所において	
<input type="checkbox"/> 自主防災会本部へ地域の被害状況の報告	自主防災会本部の指示を仰いで地域住民に伝示する (協力要請に対する応答、説明、説教説教)
<input type="checkbox"/> 自主防災会本部へ避難者集計結果の報告	
地域の集合場所	
○○児童公園	
[○○] 学区 指定避難所	
①○○小学校 ②○○中学校 (避難者数が、○○小学校の許容を超えた場合、自主防災会の判断により開設)	

防災行動シート 【地震】

災害発生時の行動をまとめておく

地域の集合場所を記入

指定避難所を記入

災害発生の危険性がある場合や、
災害により避難した住民等を
一時的に滞在させるための施設

災害発生時の行動をまとめておく

防災行動シート 【水災害】

指定緊急避難場所を記入

命を守ることを最優先とし、
災害の危険から逃れるための場所、
または施設

[○○○] 自主防災部長

防災行動シート【水災害】

災害が起こったときは以下の要領で行動を！

被害を及ぼす河川の所定の水位到達時
→緊急連絡網による伝達、警戒箇所へのパトロール
→指定緊急避難場所へ（○○中学校）

事前の備え

<input type="checkbox"/> 気象情報の入手方法の確認 ☆地上デジタルテレビのデータ放送、京都市ホームページ（京都府防災ポータルサイト）、気象庁ホームページなど	<input type="checkbox"/> 緊急連絡網、連絡方法の確認 <input type="checkbox"/> 徒歩分担の確認 <input type="checkbox"/> 非常持出袋の準備
<input type="checkbox"/> ハザードマップの確認（たつ地図の確認）	<input type="checkbox"/>

気象注意報・警報発表時

<input type="checkbox"/> 気象情報、台風情報等の確認 ☆気象庁ホームページなど	<input type="checkbox"/> 気象の雨雲接近時等の確認（+以降未終結して実施） ☆近畿の雨雲接近時（ ☆近畿の水位超過時（
<input type="checkbox"/> 遊行規制、ライフライン情報などの確認 ☆京都市ホームページ（京都府防災ポータルサイト）など	<input type="checkbox"/>

被害を及ぼす河川の所定の水位到達時

<input type="checkbox"/> 状況を自主防災会長等へ報告	<input type="checkbox"/> 必要な人員、機材の収集
<input type="checkbox"/> 緊急連絡する担当者への連絡調整（ 「緊急連絡の確認」の確認）	<input type="checkbox"/> 印刷にある避難スペースの開設可否の確認 （ある場合は）
<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難開始を指示	<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難手筋を指示

高齢者等避難充當時

<input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所の開設及び高齢者等避難が発令された旨の伝達（緊急連絡の確認）	<input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所での避難者の対応（地域住民の実情）
<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難開始を指示	<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認
<input type="checkbox"/> 避難指示発令時	<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認（避難者から直接伝達なし自主的に避難本部等へ報告）
<input type="checkbox"/> 避難指示が発令された旨の伝達（緊急連絡の確認）	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 要支援者への避難状況の確認	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所での避難者の対応（状況により）	<input type="checkbox"/>

[○○○] 学区 指定緊急避難場所

- ①○○中学校
②○○会館
③○○株式会社（会社へ連絡した承された場合）

[○○○] 自主防災部長

防災行動シート【土砂災害】

災害が起こったときは以下の要領で行動を！

大雨警報（土砂災害）かつ土砂災害危険度「危険」（紫）が発表されたとき
→緊急連絡網による伝達、警戒箇所へのパトロール
→指定緊急避難場所へ（○○中学校）

気象注意報・警報発表時

<input type="checkbox"/> 気象情報の入手 ☆地上デジタルテレビのデータ放送、京都市ホームページなど	<input type="checkbox"/> 緊急連絡網、連絡方法の確認 <input type="checkbox"/> 徒歩分担の確認 <input type="checkbox"/> 非常持出袋の準備
<input type="checkbox"/> ハザードマップの確認（たつ地図の確認）	<input type="checkbox"/>

前兆現象、災害発生のおそれが高いときは

<input type="checkbox"/> 伏流水を自主防災会長等へ連絡	<input type="checkbox"/> 町内にある避難スペースの開設可否の確認 (ある場合は)
<input type="checkbox"/> 緊急連絡網による連絡	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難準備を指示	<input type="checkbox"/>

指定緊急避難場所へ避難する時の注意点（連絡時に伝えて避難する住民へ伝達してもらう）

<input type="checkbox"/> 非常持出袋を持っていく	<input type="checkbox"/> 枝葉で地面を確認しながら避難
<input type="checkbox"/> ガスの元栓の閉栓、電気ブレーカーを切る	<input type="checkbox"/> 屋、川べりは避けて避難
<input type="checkbox"/> 移動時は徒歩、運転車を置いて避難	<input type="checkbox"/> 夜間の移動は船体を伴う。暗くなる前に早めに避難

大雨警報（土砂災害）かつ土砂災害危険度「危険」（紫）発表時

<input type="checkbox"/> 緊急連絡網を活用して指定緊急避難場所が開設中である旨を伝達	<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難準備を指示
<input type="checkbox"/> ある旨を伝達（必要に応じて）	<input type="checkbox"/> 警戒監視のパトロール

高齢者等避難発令時

<input type="checkbox"/> 緊急連絡網を活用して指定緊急避難場所が開設完了した旨及び高齢者等避難が発令された旨を伝達	<input type="checkbox"/> 要支援者の避難状況の確認
<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難準備を指示	<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認（伝達者本部へ報告）
<input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所で避難者の到着状況の連絡の確認	<input type="checkbox"/>

[○○○] 学区 指定緊急避難場所

- ①○○中学校
②○○会館
③○○株式会社（会社へ連絡した承された場合）

災害発生時の行動をまとめておく

防災行動シート 【土砂災害】

指定緊急避難場所を記入

命を守ることを最優先とし、
災害の危険から逃れるための場所、
または施設

[] 自主防災部長

防災行動シート【地震】

災害が起こったときは以下の要領で行動を！



地震発災時（普段から確認しておくこと）

<input type="checkbox"/> 自分の身の安全の確保	まず、生き残る！怪我をしないこと！
<input type="checkbox"/> 火の始末	
<input type="checkbox"/> 出口の確保	

地震発災直後

<input type="checkbox"/> 家族の安否確認	<input type="checkbox"/> 非常持出袋を持つ
<input type="checkbox"/> ガスの元栓を閉める	<input type="checkbox"/> 地域の集合場所へ
<input type="checkbox"/> 電気のブレーカーを切る	<input type="checkbox"/> 被害状況の確認
<input type="checkbox"/> 必要があれば消火活動、救助、救護活動	<input type="checkbox"/>

地域の集合場所に着くまでに

<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認	<input type="checkbox"/> 隣近所、避難に支援が必要な方に対する避難誘導
<input type="checkbox"/> 必要があれば消火活動、救助、救護活動	<input type="checkbox"/>

地域の集合場所で実施すること

<input type="checkbox"/> 地域住民の安否確認	<input type="checkbox"/> 必要があれば消火活動、救助、救護活動 (人手不足の場合は、指定避難所へ協力要請)
<input type="checkbox"/> 避難者集計	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認、情報の集約	<input type="checkbox"/> 指定避難所へ行く住民、自宅に戻る住民の把握 (防災活動へ協力できる人員の把握もあわせて行う)
<input type="checkbox"/> 災害対応への参加要請	<input type="checkbox"/>

指定避難所において

<input type="checkbox"/> 自主防災会本部へ地域の被害状況の報告	<input type="checkbox"/> 自主防災会本部の指示を仰いで地域住民に指示する (協力要請に対する消火活動、救助、救護活動等)
<input type="checkbox"/> 自主防災会本部へ避難者集計結果の報告	<input type="checkbox"/>

地域の集合場所

[] 学区 指定避難所

※指定避難所とは、災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させるための施設です。大規模地震等により、長期の避難が必要な場合に開設します。

[] 自主防災部長

防災行動シート【水災害】

災害が起きたときは以下の要領で行動を！

**事前の備え**

<input type="checkbox"/> 気象情報の入手方法の確認 ☆地上デジタルテレビのデータ放送、京都市ホームページ（京都市防災ポータルサイト）、気象庁ホームページなど	<input type="checkbox"/> 緊急連絡網、連絡方法の確認
<input type="checkbox"/> ハザードマップの確認（危険場所の再確認）	<input type="checkbox"/> 役割分担の確認
	<input type="checkbox"/> 非常持出袋の準備

気象注意報・警報発表時

<input type="checkbox"/> 気象情報、台風情報等の確認 ☆気象庁ホームページなど	<input type="checkbox"/> 近隣の雨量観測所等の確認（＊以降継続して実施） ☆近隣の雨量観測所（ ） ☆近隣の水位観測所（ ）
<input type="checkbox"/> 通行規制、ライフライン情報などの確認 ☆京都市ホームページ（京都市防災ポータルサイト）など	<input type="checkbox"/>

被害を及ぼす河川の所定の水位到達時

<input type="checkbox"/> 状況を自主防災会長等へ連絡	<input type="checkbox"/> 必要な人員、機材の収集
<input type="checkbox"/> 緊急連絡する担当者への連絡調整 (緊急連絡等の対応可否の確認など)	<input type="checkbox"/> 町内にある避難スペースの開設可否の確認 (ある場合のみ) <input type="checkbox"/> 要支援者へ避難準備を指示

高齢者等避難発令時

<input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所の開設及び高齢者等避難が発令された旨の伝達（緊急連絡網の活用）	<input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所での避難者の対応 (地域住民の集計等)
<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難開始を指示	<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認

避難指示発令時

<input type="checkbox"/> 避難指示が発令された旨の伝達（緊急連絡網の活用）	<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認 (避難者からの情報を集約し自主防災会本部等へ報告)
<input type="checkbox"/> 要支援者の避難状況の確認	

<input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所での避難者の対応（状況により）	<input type="checkbox"/>
--	--------------------------

[] 学区 指定緊急避難場所

※指定緊急避難場所とは、命を守ることを最優先とし、災害の危険から逃れるための場所または施設です。京都市では、水害と土砂災害の指定緊急避難場所を指定しています。

[] 自主防災部長

防災行動シート【土砂災害】

災害が起こったときは以下の要領で行動を！



気象注意報・警報発表時

<input type="checkbox"/> 気象情報の入手 ☆地上デジタルテレビのデータ放送、京都市ホームページ（京都市防災ポータルサイト）、気象庁ホームページなど	<input type="checkbox"/> 緊急連絡網、連絡方法の確認
<input type="checkbox"/> ハザードマップの確認（危険場所の再確認）	<input type="checkbox"/> 役割分担の確認
	<input type="checkbox"/> 非常持出袋の準備

前兆現象、災害発生のおそれが高まったとき

<input type="checkbox"/> 状況を自主防災会長等へ連絡	<input type="checkbox"/> 町内にある避難スペースの開設可否の確認（ある場合のみ）
<input type="checkbox"/> 緊急連絡網による連絡	
<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難準備を指示	<input type="checkbox"/>

指定緊急避難場所へ避難する時の注意点（連絡時に伝えて避難する住民へ伝達してもらう）

<input type="checkbox"/> 非常持出袋を持っていく	<input type="checkbox"/> 杖等で地面を確認しながら避難
<input type="checkbox"/> ガスの元栓の閉栓、電気ブレーカーを切る	<input type="checkbox"/> 崖、川べりは避けて避難
<input type="checkbox"/> 移動は徒歩、運動靴を履いて避難	<input type="checkbox"/> 夜間の避難は危険を伴う。暗くなる前に早めに避難

大雨警報（土砂災害）かつ土砂災害危険度「危険」（紫）発表時

<input type="checkbox"/> 緊急連絡網を活用して指定緊急避難場所が開設中である旨を伝達（必要に応じて）	<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難準備を指示
	<input type="checkbox"/> 警戒箇所のパトロール

高齢者等避難発令時

<input type="checkbox"/> 緊急連絡網を活用して指定緊急避難場所が開設完了した旨及び高齢者等避難が発令された旨を伝達	<input type="checkbox"/> 要支援者の避難状況の確認
<input type="checkbox"/> 要支援者へ避難開始を指示	<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認（情報を本部へ報告）
	<input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所で避難者の対応（地域の避難者の集計等）

避難指示発令時

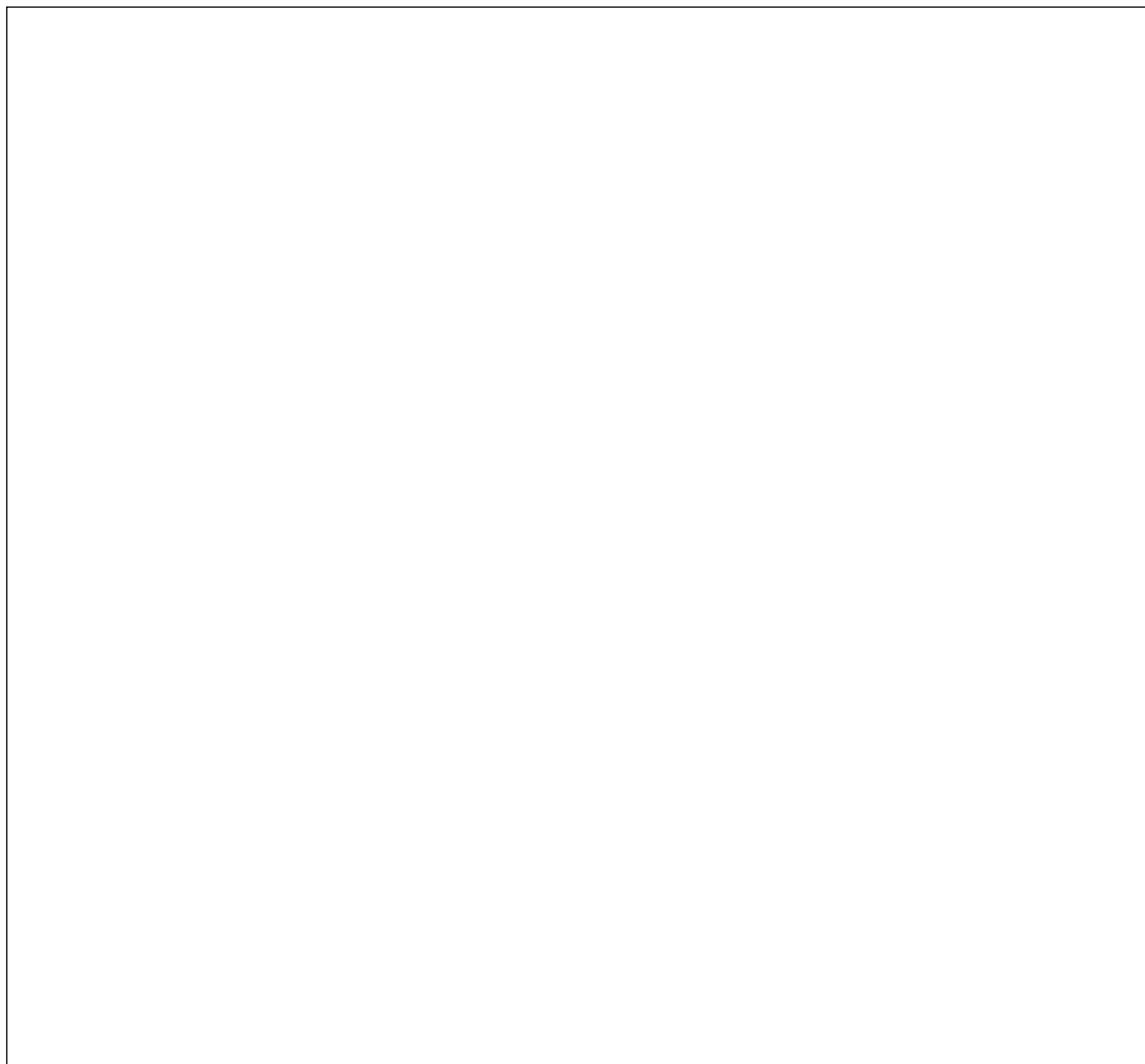
<input type="checkbox"/> 緊急連絡網を活用して指定緊急避難場所が開設完了した旨及び避難指示が発令された旨を伝達	<input type="checkbox"/> 要支援者の避難状況の確認
<input type="checkbox"/> 指定緊急避難場所で避難者の対応（地域の避難者の集計等）	<input type="checkbox"/> 地域の被害状況の確認（情報を本部へ報告）

[] 学区 指定緊急避難場所

※指定緊急避難場所とは、命を守ることを最優先とし、災害の危険から逃れるための場所または施設です。京都市では、水害と土砂災害の指定緊急避難場所を指定しています。

被害状況・安否確認用地図

〈安否確認用地図〉



地域の集合場所、指定緊急避難場所、指定避難所での集計に使用

作成例

事前に地図を作つておきましょう。



	居住者数	負傷者数		居住者数	負傷者数
①			(11)		
②			(12)		
③			(13)		
④			(14)		
⑤			(15)		
⑥			(16)		
⑦			(17)		
⑧			(18)		
⑨			(19)		
⑩			(20)		

避難者数
在宅避難者数
負傷者数
火災件数
建物被害件数

〈被害状況等集計表〉

	居住者数	負傷者数		居住者数	負傷者数	避難者数
①			(21)			
②			(22)			
③			(23)			
④			(24)			
⑤			(25)			
⑥			(26)			
⑦			(27)			
⑧			(28)			
⑨			(29)			
⑩			(30)			
⑪			(31)			
⑫			(32)			
⑬			(33)			
⑭			(34)			
⑮			(35)			
⑯			(36)			
⑰			(37)			
⑱			(38)			
⑲			(39)			
⑳			(40)			

自主防災部 名簿

[] 年度

部長	氏名
	電話
副部長	氏名
	電話
組長 (1組)	氏名
	電話
組長 (2組)	氏名
	電話
組長 (3組)	氏名
	電話
組長 (4組)	氏名
	電話
組長 (5組)	氏名
	電話
組長 (6組)	氏名
	電話
組長 (7組)	氏名
	電話
組長 (8組)	氏名
	電話

- 名簿等を作成するにあたっては、利用目的（「緊急時の安否確認のため」など）と収集する個人情報の内容を明確にし、同意を得たうえで、本人から収集（同意を得られた項目のみ）します。また、管理、運用方法に関して、あらかじめ取扱いルールを決めておきましょう。
- 連絡網を作成しない場合は、どのように情報収集・伝達すればよいのかを、普段から周知徹底する必要があります。連絡網を活用せず、その他の方法で情報伝達する場合は、その方法について検討し、地域住民への周知を図ってください。

地域における災害発生時のタイムライン式行動計画

地震発生時の行動

地震発生時は、まず自分の身の安全を確保することから始まり、地域住民同士で協力して災害に対応することになります。

被害を最小限にとどめるために、住民一人ひとりが、地震発生時における一連の行動を理解しておきましょう。

0. 日頃の備え

地震発生

1. 自分の身の安全確保・家族の安否確認

2. 出火防止措置

3. 地域の集合場所へ

4. 自主防災部で情報共有・安否確認

5. 自主防災部で消火・救出・救護活動

6. 避難所運営

避難所に大火災が迫り、二次災害のおそれがある場合は、京都市災害対策本部、消防職員、消防団等から避難指示が発令されるので、広域避難場所へ避難します。

また、避難指示が発令されていなくても、避難所が危険であると感じた場合は、広域避難場所に避難しましょう。

1. 自分の身の安全確保・家族の安否確認

グラっときたら、まず第一に自分の身の安全を確保します。

最初の小さい揺れや緊急地震速報で地震に気が付いたら、次の行動を取ります。

転倒のおそれのある家具から離れて、落下物から身を守るためにテーブルなど の下にもぐる。



もぐる場所がなく、頭を保護する物もない場合は、太い柱や頑丈な壁の付近に逃げる。



座布団やクッション、枕などで頭を保護する。



揺れが収まり、自身の安全を確保できたら、家族の無事を確認します。



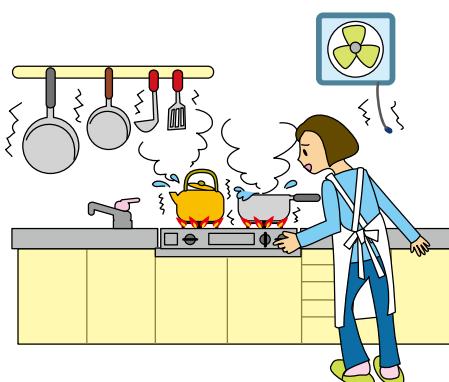
2. 出火防止措置

火の始末 地震火災の防止

地震で怖いのは火災です。地震発生時の火災が被害を何倍にも大きくすることは、過去の事例からも明らかです。

地震発生時の火災を防げば、火に追われて避難する必要もなく、落ち着いて負傷者を救護することが可能となります。

小さな揺れの場合は、すぐに火の始末。



大きな揺れの場合は、まずは自分の身の安全を確保し、揺れが一旦収まってから火の始末。



避難する前にガス・電気を遮断

感震器が震度5相当以上の地震を感じるとマイコンメーターが自動的にガスを遮断します。

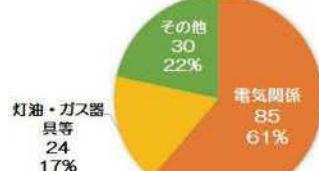


地震がおさまってから、ガス機器の器具栓を閉めて元栓も閉めてください。

阪神・淡路大震災においては、85件の電気火災が発生しています。地震発生時に使用中である電気器具のスイッチは切ってください。特にアイロンやドライヤーなどの熱器具は、火事の原因になりやすいのでコンセントからプラグを抜いてください。

地震が起きたときも、電気設備に異常がなければ送電は続きます。家の外に避難するときには、電気の消し忘れによる事故を防ぐため、ブレーカーは「切」にしてください。

『阪神・淡路大震災』



総出火件数139件のうち、電気関係は85件（約6割）
[総務省消防庁検討会報告書(1998)]

3. 地域の集合場所へ

周囲の安全に気を付け、近隣の被害状況を確認しながら、避難に支援が必要な方に声を掛けて一緒に「地域の集合場所」へ向かいます。地域の集合場所とは、大地震が発生した場合に、地域住民で協力して災害対応を行うために集合する場所です。

4. 自主防災部で情報共有・安否確認

地域の集合場所へ向かう途中で火事を発見したら、すぐに消火してください。



地域の集合場所に集まつたら、安否の確認や情報の共有を行います。

火事や閉じ込めがある場合は、必要に応じた人数のグループに分かれて消火や救出活動へ向かいます。



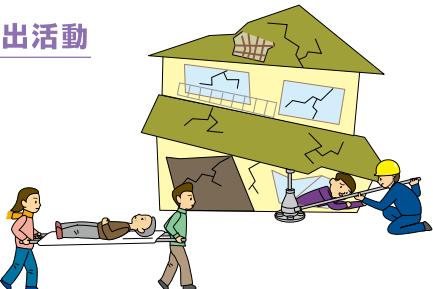
5. 自主防災部で消火・救出・救護活動

地域住民で協力して、被害を最小限にとどめましょう。

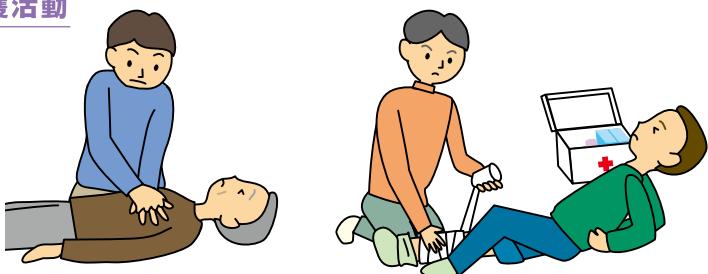
消火活動



救出活動



救護活動



6. 避難所運営

活動が終わって、自宅へ戻ることができない方は、指定避難所で避難生活を送ることになります。

ここでも、誰かに世話ををしてもらうのではなく、みんなで協力して、生活しましょう。

避難所の運営は、地域の方が中心となって行うことになりますが、「やってもらう」のではなく、一人ひとりが自分のことは自分で行い、支援が必要な方には支援の手を差し伸べましょう。



水災害・土砂災害時の行動

水災害や土砂災害は、地震とは異なり、災害が発生する前に避難行動を完了しておかなければなりません。

水災害や土砂災害の要因となる大雨や台風については、気象情報などであらかじめ予測することができます。

お住まいの地域で想定される被害や指定緊急避難場所をハザードマップで確認するとともに、ご自身に応じた最適な避難方法、避難先を事前に決めておくことが大切です。

防災情報を正しく理解して、いざというときに適切に行動できるようにしておきましょう。

0. 日頃の備え

1. 情報収集

2. 避難情報等発令

3. 避難行動開始

4. 避難完了



水災害発生



土砂災害発生

5. 避難を完了していない方は命を守る行動

6. 自宅へ戻れない方は避難所で生活

1. 情報収集

台風や大雨への対応は、数日前から始まります。気象情報など、自分が防災行動を取るうえで必要な情報収集を行いましょう。

指定緊急避難場所への避難だけでなく、安全な自宅の上階、親戚、知人の家への避難も検討しましょう。

3日前～（台風発生）

予想される台風の進路、雨量、風の強さなど、こまめに情報を収集します。



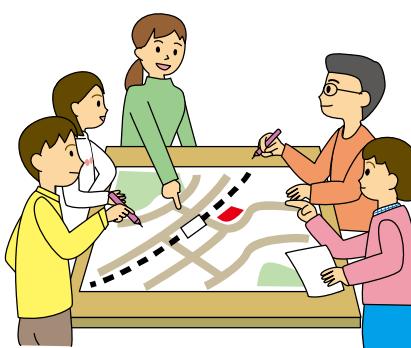
2日前

我が家家の防災行動計画「マイ・タイムライン」で、自分の避難行動、時期などを確認するとともに、非常持出袋を準備します。



1日前

京都市が作成するハザードマップや地域の防災マップで指定緊急避難場所、避難経路を再確認します。



2. 避難情報等発令

京都市から、警戒レベル3高齢者等避難や警戒レベル4避難指示などの避難情報が発令されたら、速やかに避難行動をとってください。

市町村は、様々な情報を基に避難情報発令の判断を行いますので、必ずしも防災気象情報と同じレベルの避難情報が発令されるわけではありません。また避難情報よりも先に防災気象情報が発表されることも多くありますので、高齢者等の避難が必要とされる警戒レベル3や避難が必要とされる警戒レベル4に相当する防災気象情報が発表されたときには、避難情報が発表されていなくても、自らの判断でその時点で最善の行動をとることが重要です。

水災害及び土砂災害発生までの流れと主な活動（B-9ページ）
を参照してください。



避難基準

○浸水深・自宅の建物状況による避難基準（水災害）

	河川沿いの家屋	平屋建て	2階建て以上	3階建て以上
浸水深5m以上	緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難			
浸水深3~5mまで	緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難		上階に垂直避難	
浸水深50cm~3mまで	緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難		上階に垂直避難	
浸水深50cm未満	緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難		自宅に待機	



○指定地域・自宅の建物状況による避難基準（土砂災害）

	崖地・渓流沿いの家屋	平屋建て	2階建て以上
土砂災害特別警戒区域	緊急避難場所、区域外の安全な建物へ避難		
土砂災害警戒区域	緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難	崖や渓流から離れた上階の部屋へ垂直避難	
それ以外の地域	緊急避難場所、近隣の安全な建物へ避難		自宅に待機

避難の時機を失した場合等の緊急時には、自宅内の崖や渓流から離れた上階の部屋、近隣の丈夫な建物へ避難します。



3. 避難行動開始

自主防災会と連携を図り、指定緊急避難場所が開設されているか確認してください。

警戒レベル3 高齢者等避難

高齢者や障害のある人、乳幼児など避難に時間をする人とその支援者は、避難しましょう。その他の人は避難する準備をしましょう。



警戒レベル4 避難指示

全員速やかに指定緊急避難場所や安全な自宅の上階、親戚、知人の家へ避難しましょう。移動することがかえつて危険と判断されるときは、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。



警戒レベル5 緊急安全確保

すでに災害が発生している状況です。命を守る最善の行動をとりましょう。警戒レベル5発令を待っていてはいけません。警戒レベル5が出る前に避難しましょう。



4. 避難完了

指定緊急避難場所

指定緊急避難場所は、水災害又は土砂災害から安全を確保するための場所です。お住まいの地域の指定緊急避難場所については、ハザードマップや京都市防災ポータルサイトで確認しておきましょう。

屋内安全確保ができない場合、立退き避難を要する場合は、指定緊急避難場所か近隣の安全な建物などへ移動しましょう。

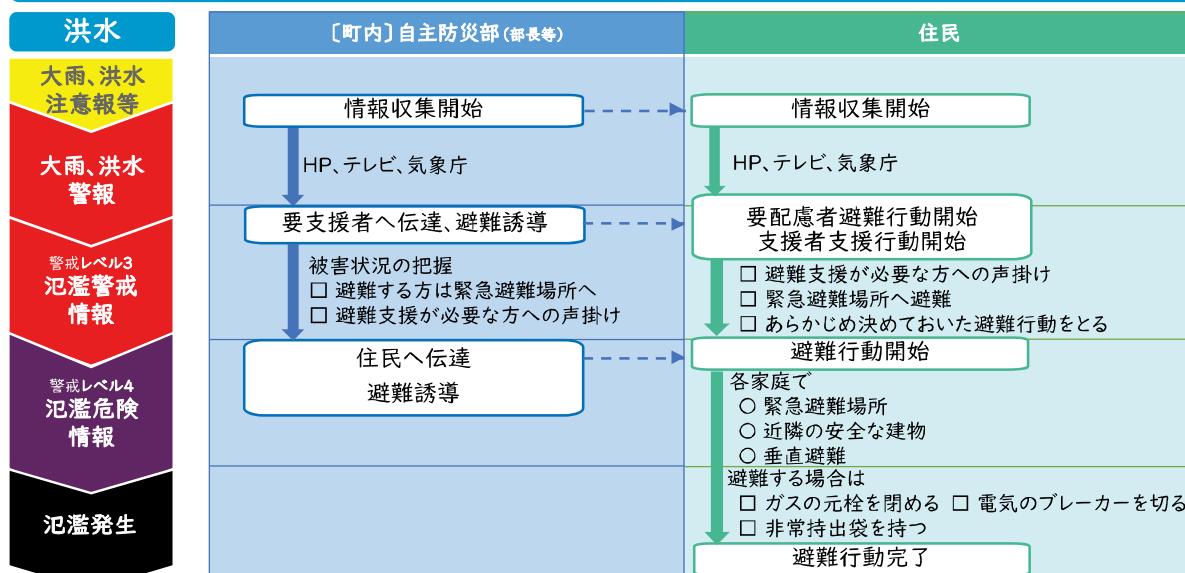
災害発生までの流れと主な活動

水災害、土砂災害発生までの大まかな流れは、次のようになります。

災害発生までの自主防災部（部長等）や住民の皆様は、下表を参考に行動できるように心掛けておきましょう。

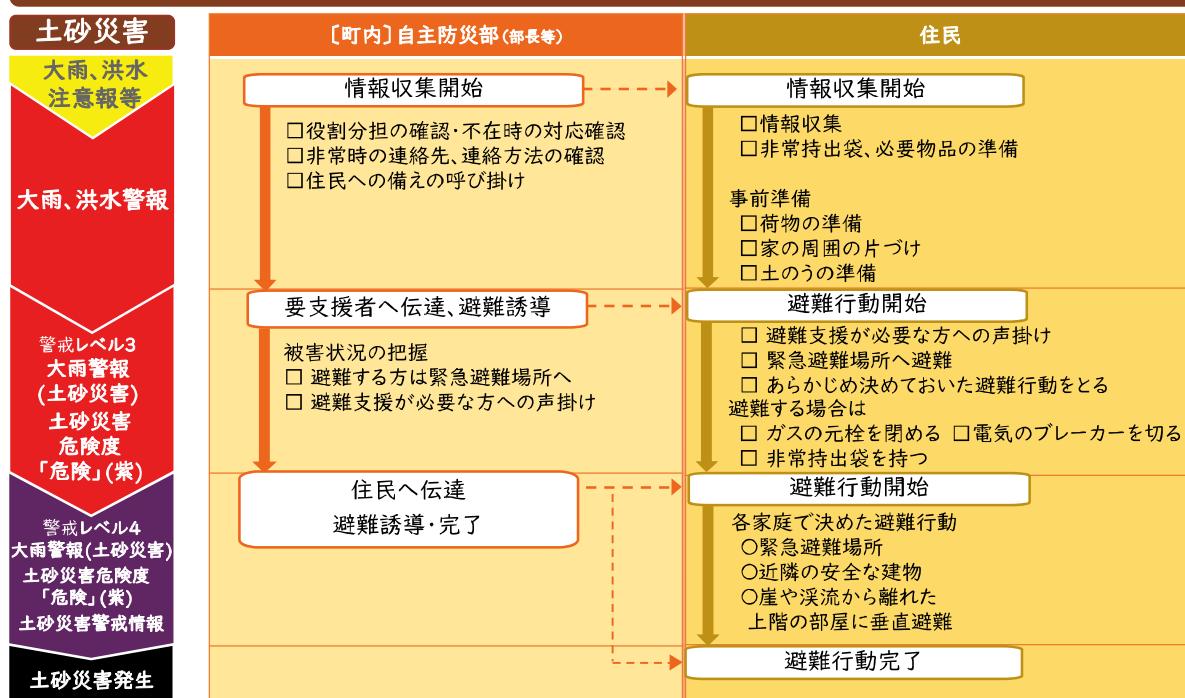
なお、気象情報や避難情報は、必ずしもこの順序で発令されるわけではなく、高齢者等避難が発令されずに避難指示が発令されることがあります。

水災害発生までの流れと主な活動



※必ずしもこの順番どおりに発生するものではありません。

土砂災害発生までの流れと主な活動



※必ずしもこの順番どおりに発生するものではありません。

※記録的短時間大雨情報・前兆現象は必ずしも発表・発生するものではありません。

平常時

平常時の活動

いつ起きてもおかしくない災害に対応するためには、平常時からの備えや、訓練などを繰り返し、継続して実施することが大切です。「訓練メニュー」の中から訓練を選択し、年に1回以上訓練を実施してください。

訓練メニューのうち、次の事項については、定期的に実施するように企画してください。

地域発災型訓練(VE. 地震)

大地震発生時の「地域の集合場所」を起点とした自主防災部の実践的な活動を、ゲーム感覚で身に着けましょう。

タウンウォッキング(まち歩き)

自分の地域を改めて注意しながら歩いてみることで、普段は気付かない地域の良いところ、危ないところを見つけることができます。地域の中の危険箇所や防災設備・史跡(浸水被害記念碑など)などを探すことで、災害を他人事ではなく「自分ごと」として認識し、住民の防災行動につなげましょう。

防災マップの作成(見直し)

京都市が作成している「ハザードマップ」は、災害の被害予想図で、震度や浸水予想などが記されています。「防災マップ」は、地域内で避難の障害となる場所や、地域の物的資源(防災器材・消火器・消火バケツ)を自分たちで書き込み、避難場所までの経路などを確認しておくものです。

タウンウォッキングで地域の状況を確認したことを、地図にして地域内で情報を共有しておきましょう。また、建物や道路の状況は変化しますので、作成した防災マップを確認しながら定期的にタウンウォッキングを行い、必要に応じて見直していきましょう。

防火見回り活動

放火火災の防止をはじめとする火災の注意喚起や、地域の防火意識を高めるため、地域内を巡回する防火見回り活動を実施しましょう。



防災ワークショップ

ワークショップとは、住民参加のまちづくりや防災学習でよく使われる会議の形式の一つです。

参加者が主体的に参加しやすいため、参加者全員の防災教育に対する意欲の向上のほか、地域における豊かな人間関係の構築が期待できます。

防災力チェック

家庭における備え、防災に対する住民の意識など、地域防災力の現状を把握するものです。毎年、年度初めや訓練終了後などにアンケート調査を行うことで、地域の弱点を見つけることができます。また、過去の結果と比較することで、防災力の向上度合いを確認することができます。

我が家家の防災行動計画「マイ・タイムライン」

避難場所を記載しておく「我が家家の防災行動シール」の取組を発展させ、災害に備えて「日頃からの備え」や「いつ」、「何をするのか」など自分自身がとるべき行動をあらかじめ時系列で決めておく計画です。

いつ起きるか分からない自然災害に備え、あらかじめ「マイ・タイムライン」を作成しておくことで、万一の際の逃げ遅れを防ぎ、自分自身や家族の安全を確保することができます。



京都市市民防災センター

地域ぐるみの自主防災体制をつくるため、自主防災組織の皆さんに体験学習を通して、防災に関する知識の習得や災害発生時の備えの重要性を確認していただけます。



映像体験コーナー 1F
(映像体験室)

ハイビジョン映像システムにより、京都の地震をはじめとした各種災害の歴史や恐ろしさ等について紹介します。 (時間: 20分)



強風体験コーナー 1F
(強風体験室)

風速32メートルの強風下における行動の困難性を体験し、自然災害について紹介します。
(時間: 20分)



地震体験コーナー 1F
(地震体験室)

震度4~7程度の横揺れを体験し、地震発生時の心構えと日頃の備えを紹介します。 (時間: 20分)

2F

- ① 消火訓練室
- ② 避難体験室
- ③ 通報訓練コーナー
- ④ 総合訓練室（2～3F吹抜け）
- ⑤ くらしの安全コーナー

・総合訓練室 2F・



防災知識や災害活動能力を高めていただくことを目的に、自動火災報知設備取扱訓練など、事業所向けの研修プログラムをご用意しております。



消火体験コーナー 2F
(消火訓練室)

モニターに模擬火災を映写し、消火器や屋内消火栓設備により消火方法を学びます。(時間:20～30分)



避難体験コーナー 2F
(避難体験室)

ホテル火災をリアルに再現し、普段経験できない煙の中の避難行動を体験します。(時間: 20分)

3F

- ① 4Dシアター 迫りくる地下街の恐怖
 - ② アンダーパスの危険性
 - ③ 出動!! こども消防隊
 - ④ 消防士に大変身!!
 - ⑤ 土砂災害体験コーナー
 - ⑥ 消防ヘリコプター（シミュレーター・エアレスキューパイロット）
 - ⑦ 視聴覚室
 - ⑧ 消防士ブレイブファイヤーファイターズ
- 防災学習ミニゲーム



**4Dシアター
迫りくる地下街の恐怖 3F**

「地下空間への浸水の恐怖」をテーマに4Dシアターシステム（3D（立体映像）+座席振動）で表現し、水害が予測される時の行動について考えていきます。(時間: 20分)



土砂災害体験コーナー 3F

土砂災害学習コーナーでは土砂災害の危険性とメカニズムを学んでいただき、リアルシアターでは土砂災害の様子を迫力ある映像で体験していただけます。(時間: 20分)

…自由体験コーナー… 3F

**休館日**

- ①月曜日※ただし、次に掲げる日に該当する場合を除く。
 - ア)1月17日、9月1日
 - イ)国民の祝日に関する法律に規定する休日(以下「休日」といいます。)
- ②月曜日が休日に当たるときは、その翌平日。(その日が月の第2火曜日に当たるときは、その翌日。)
- ③毎月の第2火曜日(その火曜日が休日に当たる場合を除く。)
- ④年末年始(1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで。)

開館時間

午前9時～午後5時

事前申込

防災体験のご予約は、ご利用日の3か月前の同日から、開館日の午前9時から午後5時まで電話でのお申込みを受け付けております。

※ただし、京都市内にお住まいの方、又は京都市内に勤務若しくは通学されている方については、4か月前の同日からお申込みができます。



※駐車スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

交通機関

市バス「市民防災センター前」下車(16・19・42号系統)

市バス「東寺南門前」下車、南へ徒歩8分

地下鉄「十条駅」下車、西へ徒歩18分

近鉄「十条駅」下車、西へ徒歩8分

**入館
無料**

**お問い合わせ
お申込み**

京都市市民防災センター TEL:075-662-1849 FAX:075-662-6050

〒601-8445 京都市南区西九条菅田町7(国道1号線十条上る東側)

災害の記憶

平成25年台風第18号 2013年(平成25年)9月

四国地方から北海道の広い範囲で大雨となり、京都府、滋賀県及び福井県においては、全国で初めてとなる「大雨特別警報」が発表されました。



渡月橋・嵐山公園の浸水状況



伏見区下鳥羽周辺の浸水状況



鴨川(三条大橋付近)の渦流



右京区京北鳴滝橋の落橋

平成30年7月豪雨 2018年(平成30年)7月

台風から変わった温帯低気圧が本州付近に停滞していた梅雨前線と一体化し、梅雨前線の活動が非常に活発な状態が、7月5日頃から8日頃まで続いたため、西日本から東海地方を中心に記録的な大雨となりました。



広島県呉市安浦町市原地区



広島県海田町畠地区

出典：(一財)消防防災化学センター「災害写真データベース」

西日本の8府県において、崖崩れや土石流による大きな被害が発生した。

（ ）**自主防災部 活動記録**

年月日	活動内容	備考
〇〇年 □□月△△日	××学区総合防災訓練に合わせて、 〇〇公園で安否確認訓練を実施した。	△組の□□さん 入院中
年 月 日		